

袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略
未来をひらく袖ヶ浦創生プラン

平成 30 年度 数値目標及び重要業績評価指標（KPI）
の実績値に対する検証

令和元年 8 月

袖ヶ浦市企画財政部企画課

I. 検証の趣旨等

1. 検証の趣旨

平成 28 年 2 月に策定した袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下：総合戦略）は、4つの基本目標及びこれら基本目標の推進の要となる取組み（別表参照）を定め、基本目標ごとの数値目標及び基本的方向ごとの重要業績評価指標（KPI：Key Performance Indicator）を設定している。

今回、平成 30 年度における取組みの結果について、数値目標及びKPIの実績により成果や課題を検証し、基本目標の達成に向けた必要な改善を行い、第 1 期総合戦略の総仕上げに取り組むとともに、総合戦略の更なる推進を図るため、第 2 期総合戦略の策定に取り組もうとするものである。

なお、主な取組みの検証については、行政評価（事務事業評価）と連携して行うものとする。

2. 総合戦略の概要

（1）総合戦略策定の背景

国では人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、各地域がそれぞれの特徴を生かした自律的で持続的な社会を創生することを目指して、平成 26 年 9 月にまち・ひと・しごと創生本部を設立し、若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、東京一極集中の歯止めや地域の特性に即した地域課題の解決により魅力あふれる地方の創生を目指すこととしている。

本市においても、自ら客観的な分析に基づいてその課題を把握し、将来懸念される人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって持続的に発展していくために、平成 28 年 2 月に総合戦略を策定したものである。

（2）総合戦略の位置づけ

総合戦略は、人口ビジョンにおいて提示する本市の将来展望を踏まえ、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条の規定により、本市における「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」に一体的に取り組むため、今後の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものである。

（3）対象期間と推進体制

総合戦略の対象期間は、2015年（平成27年）度から2019年（令和元年）度までの5か年とし、全庁的な体制で地方創生の取組みを推進するとともに、袖ヶ浦市総合計画審議会において取組状況を検証し、必要な改善を図りながら進めていくものとしている。

| 基本目標等 | 基本的方向 | 具体的な施策 |
|---|----------------------------|---------------------------------|
| 基本目標1 結婚・出産・子育ての 希望がかなうまち 袖 ヶ浦 | ①結婚・出産の支援 | (ア) 総合的な結婚の支援 |
| | | (イ) 妊娠・出産を後押しする支援制度の確立 |
| | ②子育て支援体制の充実 | (ア) 幼児期の教育・保育の充実 |
| | | (イ) 地域で子育てする仕組みの充実 |
| | ③学校教育の充実 | (ア) 教育環境の充実 |
| | | (イ) 特色ある教育の推進 |
| 基本目標2 生き活きと働くことが できるまち 袖ヶ浦 | ①基盤産業である工業の持続的 な振興 | (ア) 市外からの企業誘致 |
| | | (イ) 市内立地企業の競争力強化 |
| | ②未来を切り拓く力強い農業の 実現 | (ア) 担い手の確保・育成と農地の集約化 による有効活用 |
| | | (イ) 農業の基盤及び競争力の強化 |
| | ③就労支援による「働く場」の 創出 | (ア) 企業と人の効果的なマッチングに よる雇用促進 |
| | | (イ) 誰もが働きやすい社会の実現 |
| 基本目標3 住む人も訪れる人も満 足できるまち 袖ヶ浦 | ①人を惹きつける魅力ある観 光・商業の推進 | (ア) 観光振興による交流人口の拡大 |
| | | (イ) 商業振興による交流人口の拡大 |
| 基本目標4 地域がつながり、安心 して暮らせるまち 袖 ヶ浦 | ①防災力が高く、犯罪のない安 全な地域づくり | (ア) 防災・消防力の強化 |
| | | (イ) 防犯体制の充実 |
| | ②健康で元気に暮らせる保健・ 福祉環境の整備 | (ア) 地域における支え合い体制の確立 |
| | | (イ) 高齢者が生き活きと活躍する社会の実現 |
| | | (ウ) 市民の健康づくり活動の支援 |
| | ③生涯を通じて学び、活動でき る場や機会の充実 | (ア) 多様化・高度化する市民の学習ニーズ への対応 |
| | | (イ) 文化・芸術活動の推進と、郷土の歴史 の保存・継承 |
| | | (ウ) スポーツ・レクリエーション活動の推進 |
| ④地域連携の促進 | (ア) 地域コミュニティの推進 | |
| | (イ) 交通ネットワークの強化 | |
| 推進の要 地域資源を活用した効果的か つ継続的なシティプロモーシ ョンの展開 | ① 市内外への「袖ヶ浦」の発信 強化 | — |

Ⅱ. 平成30年度 数値目標及びKPIの状況等

基本目標1 ～結婚・出産・子育ての希望がかなうまち 袖ヶ浦～

◆ 数値目標の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|-----------------------|-----------------|-----------------|----------------------|-------------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 合計特殊出生率 | 1.45 (H25) | 1.44 人 (H28) | 1.56 人 ↗ (H29) | | 1.60 |
| 理想の子ども数と予定 子ども数の差異 | 0.34 人 (H27) | | | — ※R元年 実施予定 | 0.17 人 |

※理想の子ども数と予定子ども数の差異は令和元年度に市民アンケートを実施予定

基本的方向 ①結婚・出産の支援

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|------------------|---------------|------|-----------|-----------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 結婚相談所仲介の 成婚件数 | 5件 (H26) | 9件 | 11件 ↗ | 8件 ↘ | 10件 |
| 婚姻届の件数 | 675件 (H26) | 562件 | 623件 ↗ | 604件 ↘ | 700件 |
| 特定不妊治療助成 件数 | 30件 (H26) | 45件 | 32件 ↘ | 43件 ↗ | 55件 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・結婚支援事業【婚活イベントの開催（3回、125名参加、24組成立）】
- ・結婚相談事業【特設の結婚相談（休日相談）（3回）】
- ・結婚お祝い事業【結婚記念証の贈呈（205件）、記念撮影コーナー設置】
- ・子育て世代包括支援事業【子育て世代総合サポートセンター（相談841件）】

● 平成 30 年度のKPI実績値

結婚相談事業の休日相談回数を2回から3回に増やし、結婚の支援に取り組みましたが、結婚相談所仲介の成婚件数は29年度より3件減少しました。

婚姻届の件数は29年度より19件減少しました。

特定不妊治療助成件数は29年度より11件増加しました。

● 今後の方針

結婚支援事業については、継続して出会いの場の提供と結婚に向けた支援を行います。

また、不妊治療の医療費は高額であることから、出生率向上に資する事業として、経済的負担の軽減のために今後も継続して支援するなど、引き続き妊娠・出産を後押しする支援を継続します。

平成29年4月に開設した袖ヶ浦市子育て世代総合サポートセンターの周知に努め、引き続き、妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する不安の解消を図り、安心して子育てができる環境の向上に努めます。

基本的方向 ②子育て支援体制の充実

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|------------------------|---------------|------|-----------|-----------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 待機児童数 | 0人 (H27) | 1人 | 0人 ↗ | 0人 → | 0人 |
| ファミリーサポートセンターの援助 件数 | 545件 (H26) | 674件 | 654件 ↘ | 491件 ↘ | 590件 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・多子世帯の保育料軽減支援事業【多子世帯の保育料軽減】
- ・幼保連携推進事業【市立幼稚園統合準備】
- ・地域子育て家庭交流事業【保育士及び栄養士による相談体制整備の充実】
- ・地域子育て支援拠点事業【私立 2 カ所の新規設置】
- ・多様なニーズに応じた保育サービス事業【一時預かり私立 2 園新規実施、延長保育私立 2 園新規実施、病児保育私立 1 園新規実施、病後児保育私立 1 園新規実施】
- ・ファミリーサポートセンター事業【援助活動の支援、研修会等の実施】
- ・放課後児童クラブ支援事業【昭和小学校・根形小学校の敷地内に放課後児童クラブを整備】

● 平成 30 年度の KPI 実績値

待機児童数は引き続き 0 人となりました。

ファミリーサポートセンターの援助件数は 29 年度より 163 件減少しました。送迎援助が多かった習い事への送迎を利用していた児童が小学校を卒業したことなどによります。

● 今後の方針

保育ニーズの高まりを受け、平成 29 年 12 月に私立認可保育園、平成 30 年 4 月に私立認定こども園及び事業所内保育施設が開設されるなど、保育施設を整備し、入所定員数の拡大を図ってまいりましたが、子育て環境の充実を評価して転入する子育て世帯が増加傾向にあり、平成 31 年 4 月 1 日時点で国基準での保育所待機児童数が 28 人となっております。

令和元年 9 月に、私立の小規模保育事業所が 2 施設、令和 2 年 4 月に私立認可保育所 1 施設の開設に向けて整備計画が進んでおり、市として施設整備や運営を支援し、待機児童の解消に努めてまいります。

ファミリーサポートセンター事業では、事業の周知を行い、更なる利用の促進を図ります。

基本的方向 ③学校教育の充実

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|-------------------|----------------|-------|------------|------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 支援効果が認められた児童生徒の割合 | 81.9% (H26) | 82.8% | 82.6% ↘ | 82.9% ↗ | 85.0% |
| 調べる学習コンクールの出品率 | 64.5% (H26) | 71.7% | 77.9% ↗ | 85.1% ↗ | 70.0% |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・ 学校環境整備事業【小中学校空調設備整備着手】
- ・ 基礎学力向上支援教員配置事業【小中学校への配置（11名）】
- ・ 特別支援教員活用事業【小中学校への配置（19名）】
- ・ 読書教育推進事業【小中学校の図書購入（4,451冊）、小中学校への読書指導員配置（13名）】

● 平成 30 年度のKPI実績値

支援効果が認められた児童生徒の割合は 29 年度より増加しました。

調べる学習コンクール出品率は 29 年度より 7.2%増加し、最終目標値を上回るとともに、文部科学大臣賞などの上位賞も多く受賞しています。

● 今後の方針

小中学校における児童生徒等の熱中症予防と良好な教育環境の充実を図るため、空調設備整備に取組み令和元年7月に稼働しました。

また、将来を担う子どもたちの健やかな成長のため、指導方法についての情報交換や研修を更に充実させ、児童生徒の実態に沿った指導を進めることで、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けた取組みを進めます。

基本目標2 ～生き活きと働くことができるまち 袖ヶ浦～

◆ 数値目標の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|------------------------------------|------------------------|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|---------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 製造品出荷額 (工業統計調査) | 1兆4,215 億円 (H25) | | 8,339 億円 H29 調査 H30 公表分 | — ※H30 調査 R元年.8月 公表予定 | 1兆4,440 億円 |
| 市内民営事業所従業者 数(経済センサス) | 23,787 人 (H26) | 25,023 人 H28 調査 H30 公表分 | | | 増加を 目指す |
| 市内に「働く場」が 十分確保されていると 思う市民の割合 | 22.4% (H27) | | | — ※R元年 実施 | 30.0% |

※製造品出荷額は令和元年8月に工業統計調査結果公表予定

※市内に「働く場」が十分確保されていると思う市民の割合は令和元年度に市民アンケートを実施予定

基本的方向 ①基盤産業である工業の持続的な振興

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|--------------------|--------------|-------------|---------------|---------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 椎の森工業団地分譲率 | — (H26) | — ※一部入札済 | — ※一部入札済 | 97% | 100% |
| 企業振興条例指定件数 (累計) | 31件 (H26) | 41件 (累計) | 47件 ↗ (累計) | 49件 ↗ (累計) | 52件 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・ 椎の森工業団地企業誘致推進事業【企業誘致活動、分譲地入札（1 区画）】
- ・ 産業間連携促進事業【ガウラフェスタ with マルシェ 2018 を商工会と共催】
- ・ 企業等振興支援事業【対象施設の指定（2 件）、県主催規制緩和検討会議への出席（2 回）】

● 平成 30 年度の KPI 実績値

第 3 回分譲入札の実施により、残り 1 区画の立地企業が決定し、全 13 社の立地が決定しましたが、既に分譲済みの 1 区画について、落札者からの辞退届が提出されたことにより、再度入札手続きを実施することとなりました。

企業振興条例指定件数は、新規に 2 件の指定を行い、累計で 49 件となりました。

● 今後の方針

椎の森工業団地については、土地契約の辞退があった 1 区画については、誘致方針に基づいた企業誘致を引き続き展開し、再入札により落札者が決定しました。

また、企業振興条例に基づく設備投資を促進し、工業の持続的な振興を図るため、制度の見直しを検討します。

基本的方向 ②未来を切り拓く力強い農業の実現

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 新規就農者数 | 5人 (H26) | 14人 (累計) | 14人→ (累計) | 16人↗ (累計) | 15人 |
| 6次産業化の取組 件数 | 2件 (H26) | 2件 (累計) | 4件↗ (累計) | 5件↗ (累計) | 5件 |
| 認定農業者数 | 135人 (H26) | 157人 (累計) | 158人 (累計)↗ | 159人 (累計)↗ | 160人 |
| 人・農地プラン作 成件数 | 2件 (H26) | 4件 (累計) | 6件↗ (累計) | 6件→ (累計) | 10件 |
| 耕作放棄地解消面 積 | 101アール (H26) | 399アール (累計) | 406アール (累計)↗ | 428アール (累計)↗ | 600アール |

● 平成30年度に実施した主な取組み

- ・担い手育成・支援対策事業【農地集積の促進、認定農業者新規認定（1名）】
- ・新規就農者支援対策事業【新規就農者育成事業補助、就農相談】
- ・県営経営体育成基盤整備事業【県営事業工事負担金（区画整理27.9ha）】
- ・6次産業化支援事業【市単独補助金交付（1件）】
- ・体験農園支援事業【体験農園整備件数、開設件数（1件）】

● 平成30年度のKPI実績値

新規就農者は29年度より2人増加し、最終目標値を達成しました。

6次産業化の取組件数は29年度より1件増加し、最終目標値を達成しました。

認定農業者数は新たに1人増加しました。

人・農地プラン作成について各地区で説明会を行いました。新規作成はありませんでした。

耕作放棄地解消面積は29年度より22アール増加しました。

● 今後の方針

農業の担い手である認定農業者、農業法人の設立、新規就農者の営農安定化を支援し、今後も継続して地域農業の安定的な振興を図ります。

また、農業経営の合理化を図るため、生産性の高いほ場整備を行うとともに、担い手の育成や農地の集積に取り組んでおり、浮戸川上流Ⅲ期は令和2年度、武田川下流地区は令和4年度の完成を目標として事業を進めます。

基本的方向 ③就労支援による「働く場」の創出

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|------------------|----------------|-------|------------|------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 創業件数 | 4件 (H26) | 5件 | 13件 ↗ | 7件 ↘ | 6件 |
| 就職面接会等の参加者数 | — (H26) | 39人 | 19人 ↘ | 97人 ↗ | 40人 |
| シルバー人材センター会員の就業率 | 77.1% (H26) | 83.2% | 76.4% ↘ | 77.6% ↗ | 84.0% |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・創業支援事業【ワンストップ窓口の設置（相談 21 件）、市相談連携窓口の設置（相談 22 件）、創業塾の開催（7 名参加）、創業プレセミナーの開催（9 名参加）】
- ・就労支援事業【就職面接会等（7 回、97 名参加）の開催、雇用促進奨励金の交付】
- ・シルバー人材センター育成事業【補助金の交付、運営支援】

● 平成 30 年度の KPI 実績値

創業件数は 29 年度より 6 件減少しましたが最終目標値を上回っています。

就職面接会等の参加者数は、開催回数を 4 回から 7 回に増やし、78 人増加し、最終目標値を大幅に上回っています。

シルバー人材センター会員の就業率は 29 年度より 1.2%増加しました。

● 今後の方針

市民が安心して働くことのできる場を確保するため、創業支援や就労支援の PR を継続していきます。

創業支援では、創業に向けて相談しやすい環境づくりのため、商工会にワンストップ相談窓口を設定しており、創業プレセミナーや創業塾を開催し、創業前から創業後において一貫した支援を行い、創業件数の増加に取り組んでいきます。

椎の森工業団地への企業進出や既存立地企業の事業拡張等による人材確保は益々重要となってくることから、市内企業と連携しながら合同就職面接会の開催に向け準備を進めていきます。

シルバー人材センターにおける会員数が減少していることから、引き続き運営を支援し、高齢者の就業の場の確保に努めます。

基本目標3 ～住む人も訪れる人も満足できるまち 袖ヶ浦～

◆ 数値目標の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 人口動態における 社会増減数 | 243人 (H25) | 466人 (H27～ 28) | 1,088人 ↗ (H27～ 29) | 1,899人 ↗ (H27～ 30) | 2,000人 (期間内合計) |
| 観光入込客数 | 1,595 千人 (H26) | 1,727 千人 | 1,686 千人 ↘ | 1,773 千人 ↗ | 1,800 千人 |
| 市に「定住意向」を持 つ市民の割合 | 45.5% (H27) | | 46.8% ↗ | | 50.0% |

基本的方向 ①人を惹きつける魅力ある観光・商業の推進

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|---------------|-------------------|-------------|------------------|------------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 観光入込客数 | 1,595 千人 (H26) | 1,727 千人 | 1,686 千人 ↘ | 1,773 千人 ↗ | 1,800 千人 |
| 一店逸品運動の参加事業所数 | 19 事業所 (H26) | 18 事業所 | 21 事業所 ↗ | 25 事業所 ↗ | 30 事業所 |
| 観光協会 HP アクセス数 | 81,969 件 (H26) | 67,515 件 | 69,802 件 ↗ | 89,489 件 ↗ | 90,000 件 |

● 平成 30 年度の主な取組み

- ・観光振興支援事業【外国語版ガイドマップの作成】
- ・観光・直売型農業推進事業【学校給食における地場産野菜の普及促進】
- ・体験農園支援事業【体験農園整備補助金交付（1 件）】
- ・袖ヶ浦海浜公園活用事業【バーベキュー施設の開設】
- ・商店街活性化支援事業【一店逸品運動（2 回）、まちゼミの実施（2 回）】
- ・産業間連携促進事業【袖ヶ浦産米粉プレミックス粉「袖っ粉ミックス」販売開始、ガウラフェスタ with そでがうらマルシェ 2018 開催（来場者 6,000 人）】

● 平成 30 年度の KPI 実績値

観光入込客数は県の調査によるもので、30 年度から調査対象に「袖ヶ浦海浜公園」と「袖ヶ浦フォレストレースウェイ」の 2ヶ所が追加されたこともあり、約 8 万人の増となっています。この他に、市の独自の収穫体験等の取組みにより、約 3 万人の入込客数がありました。

また、まちゼミを本格実施したことにより、一店逸品運動の参加事業所数は新たに 4 事業所増加しました。

観光協会 HP アクセス数は、情報発信の内容や更新頻度、SNS の活用などの創意工夫により 29 年度より約 20,000 件増加しました。

● 今後の方針

都心とのアクセス性や豊かな自然環境など、本市の魅力を情報発信するとともに、商工会や観光協会と連携したイベント等を積極的に行い、まちのにぎわい創出に向けた取組みを継続していきます。

平成 31 年 3 月に観光協会が一般社団法人として法人格を取得したことにより、事業を展開できる幅が広がったため、新たな取り組みについて検討し観光 PR に努めていきます。

基本的方向 ②交通アクセス性の高さの活用による定住促進

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|------------------|------------|-----|----------|----------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 空き家バンク利用 登録者数 | － (H26) | 9人 | 17人 ↗ | 21人 ↗ | 20人 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・ 空き家等対策事業【空き家台帳整備に伴う再調査】

● 平成 30 年度のKPI実績値

空き家バンク利用登録者数は 29 年度より 4 人増えて 21 人登録され、最終目標値を達成しました。

● 今後の方針

空き家バンクの利用登録者 21 人に対して登録物件が 7 件と少ない状況になっており、空き家バンク協議会と連携し、空き家バンクの登録物件を確保するとともに、効果的な情報発信に努め、空き家の有効活用を促進していきます。

基本目標4 ～地域がつながり、安心して暮らせるまち 袖ヶ浦～

◆ 数値目標の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|------------------|----------------|-----|------------|-----------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 「住みやすいと感じる」市民の割合 | 76.8% (H26) | | 79.5% ↗ | — ※R元年 実施 | 80.0% |

※「住みやすいと感じる」市民の割合は令和元年度に市民アンケートを実施予定

基本的方向 ①防災力が高く、犯罪のない安全な地域づくり

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|----------------|----------------|-------|------------|------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 自主防災組織結成数 | 69 組織 (H26) | 72 組織 | 73 組織 ↗ | 74 組織 ↗ | 79 組織 |
| 自主防犯パトロール隊の組織数 | 40 組織 (H26) | 39 組織 | 42 組織 ↗ | 41 組織 ↘ | 45 組織 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・ 震災対策自主防災組織整備事業【組織設立の促進、防災訓練の実施】
- ・ 消防団協力事業所表示制度の活用【新規協力事業所の認定（1社）】
- ・ 防犯対策運営事業【防犯啓発活動、防犯カメラ設置（4台）】

● 平成 30 年度のKPI実績値

自主防災組織結成数は新たに 1 組織増加しました。

自主防犯パトロール隊の組織数は 1 組織減少しました。

● 今後の方針

自主防災組織が合同で地区の防災訓練を実施するなど、地域防災力の向上が図られており、今後も意識啓発を行い、自主防災組織の結成及び活性化に努めます。

また、市民生活安全メールの配信等による注意喚起のほか、警察の協力を得ながら防犯講習会等を行うなど、地域ぐるみでの防犯活動を推進していきます。

基本的方向 ②健康で元気に暮らせる保健・福祉環境の整備

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|-----------------|---------------|--------|-------------|-------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 世代間支え合い支援制度利用者数 | 10人 (H26) | 10人 | 17人 ↗ | 15人 ↘ | 18人 |
| シニアクラブ加入者数 | 963人 (H26) | 840人 | 781人 ↘ | 734人 ↘ | 1,250人 |
| 健康マイレージ参加者数 | — (H26) | 1,644人 | 2,050人 ↗ | 1,961人 ↘ | 3,000人 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・身近な交流の場づくり推進事業【新設サロン開設（2箇所）】
- ・世代間支え合い家族支援事業【補助金交付、事業周知】
- ・シニアクラブ活動助成事業【シニアクラブ連合会等への補助金交付】
- ・介護予防効果を期待できる高齢者の居場所づくり【いきいき百歳体操全市交流大会の開催】
- ・そでがうら健康マイレージ事業【事業周知、参加機会の確保】

● 平成 30 年度のKPI実績値

世代間支え合い支援制度利用者数は 29 年度より 2 人減少しました。

シニアクラブ加入者数はシニアクラブ連合会と協力して加入促進の周知を行いました。29 年度より 47 人減少しました。

健康マイレージ参加者数は、29 年度より 89 人減少しました。

● 今後の方針

身近な交流の場づくり推進事業では、各地域における地域の誰もが集まりやすい世代間交流・地域交流の場として、30 年度は市内 6 地区 26 箇所で 5 千人を超える参加者がありました。引き続き、高齢者や子育て中の親子が孤立せずに、地域に合わせた活動の実施へつなげていけるよう支援します。

世代間支え合い支援制度は、住宅金融支援機構と住宅ローン金利の優遇について協定を締結しており、県内全域並びに都内、川崎市及び横浜市等対岸の住宅展示場にチラシを設置し、積極的な事業の周知に取り組みます。

30 年度に初めて開催した袖ヶ浦いきいき百歳体操全市交流大会を継続して開催し、百歳体操の普及と取組みの継続支援を行い、介護予防に努めます。

健康マイレージの参加者は、60 歳代、70 歳代が多く、若年層の参加者が少ないため、より多くの方に周知を図っていきます。

基本的方向 ③生涯を通じて学び、活動できる場や機会の充実

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|---------------------|-----------------|--------|-------------|-------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 市民三学大学講座 参加者数 | 2,000人 (H26) | 2,270人 | 2,445人 ↗ | 2,290人 ↘ | 2,000人 |
| 袖ヶ浦美術展への 来場者数 | 2,705人 (H26) | 2,623人 | 3,852人 ↗ | 2,729人 ↘ | 2,800人 |
| 総合型地域スポー ツクラブ会員数 | 1,247人 (H26) | 1,275人 | 1,345人 ↗ | 1,296人 ↘ | 1,370人 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・市民三学大学講座【地域フォーラムと共催による開催等（4回）】
- ・芸術活動普及事業【袖ヶ浦美術展開催の支援】
- ・文化財保護・公開活用事業【講演会、現地説明会、各種講座の実施】
- ・民族・伝統芸能保護継承事業【民俗芸能発表会開催】
- ・総合型地域スポーツクラブ活性化事業【スポーツ教室等の開催（3回）】

● 平成 30 年度の KPI 実績値

市民三学大学講座参加者数は 29 年度より 155 人減少しましたが、引き続き最終目標値を上回りました。

袖ヶ浦美術展への来場者数は、29 年度は第 30 回記念展示が実施され来場者が多かったことから、1,123 人減少しました。

総合型地域スポーツクラブ会員者数は、会員の高齢化が進んでおり 29 年度より 49 人減少しました。

● 今後の方針

市民三学大学講座は、様々な団体と協力体制を整え、引き続き各分野における市民の継続した学習活動を促進します。

袖ヶ浦美術展では、美術展としての質を向上させながら、市民の文化芸術活動を活性化します。また、様々な手法を用いて、山野貝塚を市民に周知し、市民の文化財保護の意識と郷土への愛着を高めます。

民俗・伝統芸能保護継承事業では、民俗芸能継承団体の活動について、広報の充実を図り、周知活動に取り組みます。

総合型地域スポーツクラブでは、30 年度のウォーキングフェスタには過去最高の 737 名が参加しており、今後も引き続き事業を支援することで、スポーツ・レクリエーションの振興を図ります。

基本的方向 ④地域連携の促進

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|--------------------|--------------------|--------------|-------------------|-------------------|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 自治会加入率 | 61.9% (H26) | 60.3% | 59.1% ↘ | 57.6% ↘ | 72.0% |
| 路線バス利用者数 (補助路線) | 170,251 人 (H26) | 172,552 人 | 169,316 人 ↘ | 176,945 人 ↗ | 180,000 人 |

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・自治振興対策事業【補助金交付（3 地区）、地区座談会実施】
- ・高速バス利便性向上事業【新規路線渋谷線運行開始、東京線（東京ガウライナー）増便、袖ヶ浦バスターミナル羽田線風除けシェルター設置】
- ・利用者ニーズに応じた地域公共交通づくり事業【補助金交付 4 路線、公共交通マップ配布、無料お試し乗車実施】

● 平成 30 年度の KPI 実績値

自治会加入率は加入促進PRを行いましたでしたが、29年度より1.5%減少しました。袖ヶ浦駅海側地区や平成通り沿いの市街化調整区域緑辺部等において住宅開発が進み世帯数の増加や、アパート住まいの単身世帯の方などが自治会に加入しないケースが増えたことなどの要因により、加入率が低下したと考えられます。

路線バス利用者数は、利用促進を図るため、公共交通マップの配布やバスの乗り方教室などのPR活動、無料お試し乗車を実施したところ、29年度より7,629人増加しました。

● 今後の方針

自治会は、住みよいまちづくりを進める中心的な役割を担っていることから、補助金交付や加入促進PR、自治会加入促進マニュアルの有効活用を図るなど、今後も継続して支援していきます。また、袖ヶ浦駅海側地区などの新しい地区においては、自治会設立に向けた支援をしていきます。

高速バス利便性向上事業については、袖ヶ浦バスターミナル利用者のバス待ち環境の改善を図るため、新宿線と渋谷線に風除けシェルターを設置します。

路線バスの利用促進策としてPR活動を継続するとともに、お試し乗車の再実施や公共交通情報を網羅した公共交通マップの配布によりわかりやすい情報提供に努め、利用者数の増加を図ります。

(推進の要となる取組み)

～地域資源を活用した効果的かつ継続的なシティプロモーションの展開～

目標の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|----------------------------|----------------|-----|------------|-----|--------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 市の知名度 (市外住民の本市の認 知度) | 23.4% (H27) | | 21.6% ↓ | | 40.0% |

基本的方向 ①市内外への「袖ヶ浦」の発信強化

◇ 重要業績評価指標（KPI）の状況

| 指 標 | 基準値 | 実績値 | | | 目標値 (R元年) |
|---------------------|---------------------|--------------|-------------------|-------------------|------------------------------------|
| | | H28 | H29 | H30 | |
| 市のHPアクセス数 | 332,133件 ※H26参考値 | 507,769 件 | 584,911 件 ↗ | 714,311 件 ↗ | 750,000 550,000 件 |
| 市公式ツイッター のフォロワー数 | 204人 (H27) | 648人 | 875人 ↗ | 1,398人 ↗ | 1,500 1,000 人 |

※HPアクセス数 H26 参考値はトップページのアクセス数

● 平成 30 年度に実施した主な取組み

- ・シティプロモーション推進事業【ポスター作成・掲出、特設サイト開設、東京日本橋マルチディスプレイ市PR動画放映、「ガウラフォトクラブ」による魅力のPR、市内施設見学バスツアー（4回）】

● 平成 30 年度のKPI 実績値

市のHPアクセス数は29年度より129,400件増加し、最終目標値を達成したことから、目標値を上方修正しました。

市公式ツイッターのフォロワー数は29年度より523人増加し、最終目標値を達成したことから、目標値を上方修正しました。

● 今後の方針

シティプロモーションは直接的に事業効果を検証することは難しいですが、市の認知度を高めるために継続して実施していくことで効果があらわれるものであり、令和元年度においては、対象エリアを限定した車内広告やWeb広告、デジタルサイネージによるPRを行います。

Ⅲ. 平成30年度 数値目標及びKPIの検証

【総合計画審議会】

◆ 基本目標1～結婚・出産・子育ての希望がかなうまち袖ヶ浦～

①結婚・出産の支援

取組みの推進によりKPI実績値は概ね順調に推移している。

②子育て支援体制の充実

待機児童数0人への継続的な取組みが行われており、KPI実績値は概ね順調に推移しているが、平成31年4月において待機児童が発生していることから、将来的な保育ニーズの把握に努め、施設整備や運営支援に取組み、待機児童の解消を図りたい。

③学校教育の充実

特別支援教員活用事業や読書教育推進事業の取組み等によりKPI実績値は順調に推移している。

◆ 基本目標2～生き活きと働くことができるまち袖ヶ浦～

①基盤産業である工業の持続的な振興

椎の森工業団地企業誘致推進事業の取組みや企業等振興支援事業の取組み等により、KPI実績値は順調に推移している。計画最終年度において目標値を達成できるよう取り組まれない。

②未来を切り拓く力強い農業の実現

取組みの推進によりKPI実績値は概ね順調に推移している。

③就労支援による「働く場」の創出

取組みの推進によりKPI実績値は概ね順調に推移している。雇用情勢の改善もあり、企業の人材確保は重要な課題となっていることから、引き続き、人材を求める企業と就職希望者のマッチング支援に取り組まれない。

◆ 基本目標3～住む人も訪れる人も満足できるまち袖ヶ浦～

①人を惹きつける魅力ある観光・商業の推進

取組みの推進によりKPI実績値は概ね順調に推移している。観光協会が法人格を取得したメリットを生かした新たな事業展開により、更なる観光の発展に取り組まれない。

②交通アクセス性の高さの活用による定住促進

空き家バンク制度の運用開始によりKPI実績値は順調に推移しているが、物件の登録が少なくマッチングが困難な状況にあるため、登録物件の確保に向けた取組みが望まれる。

◆ 基本目標4～地域がつながり、安心して暮らせるまち袖ヶ浦～

①防災力が高く、犯罪のない安全な地域づくり

取組みの推進によりKPI実績値は概ね順調に推移している。

②健康で元気に暮らせる保健・福祉環境の整備

KPI実績値が減少していることから、課題を調査・分析し、目標の達成に努められたい。特に、シニアクラブ加入者数は減少が続いている一方で、いきいき百歳体操の活動が活性化していることから、高齢者が住み慣れた地域で、生き生きと暮らせるための取組みについて検討し支援されたい。

③生涯を通じて学び、活動できる場や機会の充実

KPI実績値が29年度より減少したが、目標値達成に向けて順調に推移している。

④地域連携の促進

自治会加入率については、様々な取組みが実施されているが、KPI実績値は減少傾向にあり、転入者増加の著しい袖ヶ浦駅海側地区などにおいて自治会設立に向けた支援を行い、改善に取り組まれたい。

◆ 推進の要となる取組み

～地域資源を活用した効果的かつ継続的なシティプロモーションの展開～

①市内外への「袖ヶ浦」の発信強化

工夫を凝らした様々なシティプロモーション推進事業の取組みによりKPI実績値は順調に推移している。

4つの基本目標及び推進の要となる取組みの進捗について、KPIを設定した事業の評価や検証により効果的な対応に取り組まれてきたが、KPI実績値の進捗状況には各分野で差が生じており、取組の効果が現れやすい分野とそうでない分野があることがうかがえる。

第1期総合戦略の策定前と比較して、本市の人口が増加していることや産業の分野においては具体的な効果も現れているが、全国的な課題である合計特殊出生率については、本市においては数値が上昇しているものの目標値に達していない状況である。

第2期総合戦略の策定にあたっては、第1期総合戦略の検証結果を踏まえ、選択と集中の観点から優先的に取り組む事業を総合戦略として体系化して、より実効性のある事業展開につなげていただきたい。

特に、基本目標1及び基本目標4における、将来の人口減少と少子高齢化は依然として深刻な課題であることから、第2期以降も継続的な取組みが望まれる。

平成30年度地方創生拠点整備交付金事業の評価

1. 地方創生拠点整備交付金の目的

地方創生拠点整備交付金は、未来への投資という観点から、地方版総合戦略に位置付けられた、地方公共団体が自主的・主体的に実施する地域拠点づくりなどの事業で、平均所得の向上・生産額の増加・雇用創出など、地方創生への波及効果の発現を期待できる施設の整備等を支援するため、国が交付するものです。

2. 地方創生拠点整備交付金の対象事業

(1) 名称

力強い農業基盤整備のための拠点改修プロジェクト

(2) 内容

農家の高齢化や割安な海外産の農畜産物の流入など厳しさを増す農業環境を打開するため、袖ヶ浦市農畜産物直売所「ゆりの里」を増改築することで農畜産物販売面積を増やし、地産地消の更なる推進を図ります。

また、6次産業化に意欲ある事業者や新規就農者が商品開発・試験販売する場所を確保することで、新たな販路開拓や消費者ニーズを把握し、農業ビジネスの強化・袖ヶ浦産ブランドの確立を図ります。

○交付対象事業に要する経費

総事業費 66,301 千円

(交付率 1/2、平成 29 年 2 月補正予算)

○施設整備の内容

農畜産物直売所改修工事設計委託、店舗拡張工事、売場内照明器具改修工事、休憩所屋根設置工事、外壁改修工事、アイス売場設置工事、キュービクル設置工事等

(平成 29 年度事業執行)

(3) 重要業績評価指標（KPI）

| | 事業開始前 平成27年度末 | 平成28年度 (1年目) | 事業終了時 平成29年度 (2年目) |
|---|------------------|-----------------|--------------------------|
| 平成27年度 ゆりの里年間生産者 売上額と比較した 増加額（千円）※ | 341,000 | 【目標増加額】 0 | 【目標増加額】 0 |
| | | 【目標売上額】 341,000 | 【目標売上額】 341,000 |
| | | 【実績増加額】 +27,710 | 【実績増加額】 +28,656 |
| | | 【実績売上額】 368,710 | 【実績売上額】 369,656 |
| 6次産業化の 取組み件数（件） | 2件 | 【目標】 0 | 【目標】 1 |
| | | 【実績】 0 | 【実績】 2 |
| 新規就農者数 (人) | 11人 | 【目標】 1 | 【目標】 1 |
| | | 【実績】 3 | 【実績】 0 |



| 平成30年度 (3年目) | 令和元年度 (4年目) | 令和2年度 (5年目) | 増加分の累計 実績は 平成30年度末時点 |
|-----------------|-----------------|-----------------|----------------------------|
| 【目標増加額】 +10,000 | 【目標増加額】 +3,000 | 【目標増加額】 +3,000 | 【目標増加額】 +16,000 |
| 【目標売上額】 351,000 | 【目標売上額】 344,000 | 【目標売上額】 344,000 | 【実績増加額】 +95,591 |
| 【実績増加額】 +39,225 | | | |
| 【実績売上額】 380,225 | | | |
| 【目標】 1 | 【目標】 1 | 【目標】 1 | 【目標】 4 |
| 【実績】 1 | | | 【実績】 3 |
| 【目標】 1 | 【目標】 1 | 【目標】 1 | 【目標】 5 |
| 【実績】 2 | | | 【実績】 5 |



※ゆりの里増改築工事後の平成30年度から、平成27年度と比較した生産者売上額の増加分を目標値として設定しています。

※生産者売上額と指定管理者仕入分を合計したゆりの里全体の年間売上額は平成27年度549,221千円、平成28年度561,339千円、平成29年度546,019千円、平成30年度548,536千円となっています。

3. 実績値の評価

全ての重要業績評価指標において、平成30年度の目標値を上回りました。

4. 今後の方針

施設改修後、生産者売上額は順調に上昇しており、今後、隣接地での新たな収穫体験の開催を検討し、来客数や生産者売上額の増加に取り組み、地産地消の更なる推進を図ります。

6次産業化した農畜産物については、販売先の拡大や認知度の向上などの支援に取り組みます。新規就農者については、農業関係機関と連携し増加することができていることから、各種制度の活用を周知して、新規就農者の早期の営農安定化の支援に取り組みます。

5. KPIの検証

全てのKPI実績値で順調な推移を確認し、一部最終目標値を達成しています。今後も目標値達成に向けて継続した取組みが望まれます。

袖ヶ浦市総合計画基本構想（案）に係る総合計画審議会委員からの意見について

1 意見募集の概要

- (1) 意見の募集期限 令和元年7月26日（金）
 (2) 提出者数・意見数 7委員・14件

2 意見の概要

| 整理番号 | 意見の概要 |
|----------|--|
| A委員 | 参考資料に記載された市の沿革の中に市が誕生した箇所があるが、「袖ヶ浦」から「袖ヶ浦」へ変化したような内容もしくは思いのような文面を追加しないか。 |
| B委員 1 | 基本的視点の内容表現は良く理解できるが、今後の詳細施策は、誰でも理解しやすいように具体的に作成してもらいたい。 |
| B委員 2 | 共通の視点で「今後も効率的・効果的な・・・」と書かれているが、現在も取り組んでいる中で、これからの取り組みへの決意的な表現が良いのでは。 |
| B委員 3 | 市が目指す将来の姿の「緑かがやく」の部分は、基本構想のメインとして一考願いたい。なんとなくでは意味がない。 |
| C委員 1 | 「誰もが活躍するまち」については、すべての年齢の人を対象にしていると考えられるので、「人間形成を育む幼児・学校教育」とするべきではないか。 |
| C委員 2 | 「誰もが活躍するまち」の「このため～」の部分が子どものみが念頭なるように受け取られるので、「現在活躍している市民の知識・能力・経験等を活かしつつ」を加えることで、「みんなでつくる」の言葉が生きてくると思う。 |
| D委員 | 基本的視点を実現するにあたり、市内の交通網整備が欠かせない。高齢者が活躍するためにも、無理に運転することなく移動できるよう早急に取り組むべきであり、基本構想において表現できないか。 |
| E委員 1 | 市が目指す将来の姿の説明に「事業者や行政の持つ特性を最大限に活かして」とあるが、何を表しているのか疑問である。「事業者や行政が一体となって」など市民が理解できる平易な表現が良い。 |
| E委員 2 | 市が目指す将来の姿の説明に「利便性の高い交通アクセスや多様な地域資源など」とあるが、具体的な表現を追加したほうが、課題等が明確になるのではないか。 |
| E委員 3 | 基本的視点に「誰もが活躍するまち」とあるが、活躍は感じ方が違う人も出てくるのではないか。 「一人ひとりが存在感あるまち」の方が、活躍されている方の顔が見え、達成感なども味わえ、活力アップや向上心につながると思う。 活躍しても存在感がないと継続性がない。 |

| | |
|----------|--|
| E委員 4 | <p>目標人口については、目標ではなく将来の人口推移と考える。</p> <p>基本的視点から考えても、市の財政は今以上に良くなると思えないし、目標も達成できると思えない。</p> <p>一人ひとりの生産性向上や付加価値を上げる施策を見出さないで人口が減るとするのは、目標設定としての確でない。</p> |
| F委員 1 | <p>基本的視点で「誰もが活躍するまち」とあるが、内容が子どもに重点を置いた偏り感がある記述で終わっている。就労世代や高齢者の活躍についてフレーズを追加してほしい。</p> |
| F委員 2 | <p>共通の視点の「みんなでつくるまち」は、基本的視点1から3までの共通のエッセンスであり、市民の自律（「自立」ではなく「自律」）を醸成し、市が支援することで具体化していくと解釈しているが、この文書では少しぼやけている（物足りない）ように感じた。</p> |
| G委員 | <p>市が目指す将来の姿における「緑かがやく」の部分が、視点のどれに対応しているのか、わかりづらい印象を受けた。</p> <p>視点2「安心して暮らせるまち」の中で「緑があふれる快適な住環境の中で」など、緑豊かな環境に関する記載を追加したらどうか。</p> |